

〔長崎夜話草〕五長崎土産物

煙草略中 能は煙を吸て鬱氣を開き、氣力を益し、山嵐瘴氣を避け、冷濕を散ず、葉を書笈に入れて、蠱虫を除く、脂は蛇毒を解し、虫歯を堅くす、金瘡に葉を付て血を止む、内障の眼、又は青盲に好といへども、いまだ其驗を見ず、又煙を吸て食を消すといふ、

毒は多く煙を吸ぬれば口中損ず、又上氣耳鳴に忌べし、眼病に可禁、但虚眼には忌すといへども、多く吸ては、相火を助くる故に仇となるべし、常に多く吸ときは、呼吸を暴くして、血脉進數なり、故に壽命を減するの恐あり、いはんや壯年血氣強盛なる人をや、痰喘の人可忌之、勞瘵の病大に禁すべし、胃火を生じ、心熱を壯にす、

煙草の毒を解するの方、麥門冬、紫蘇子、瓜蒌仁、枇杷葉、甘草、已上五味等料、如常煎じ、査を去て、砂糖一兩を入れて服す、尤妙なり、

〔煙草記〕調法

書物の間に、たばこをはさみおけば、しみさりぬ、

〔安齋隨筆 前編十一〕煙草 煙草は古代なき物也、慶長の頃、蠻國より渡り來ると云傳たり、是を不好人は、毒物也として、其害を論ずる人もあり、酒を多く吞人は、酒毒にて終に内損の病になり、或は吐血、或は浮腫、或は黃疸等にて死する人あり、煙草を好て、煙毒に中り内損し、病を發して死したる人を、不見不聞、然れば毒物に非ず、良物にも非ず、煙を吸て試るに、讀書寫字に而、心倦み氣鬱したる時には、氣を運し、鬱を開くを覺ゆ、食後に煙を吸へば、口中爽になるを覺ゆ、此外には何の事もなし、尤無益の物也、

〔閑田次筆 四〕煙草は唐山も此方も、なべて二百年來、もはら人の嗜むものにて、一たび吸ては、忘れがたきゆゑに、相思草ともいへり、蠻國より出て世に弘まれるにて、本草備要などにも是を出し